令和5年度高知県学力定着状況調査の公表に係る県教育長コメント

令和6年2月16日

高知県学力定着状況調査及び質問調査は、これまでの学力調査等の結果から明らかとなった児童生徒一人一人の学力についての課題の改善状況を把握し、残る課題に適切に対応して学力を確実に補完することを大きな目的として小学校第4・5学年及び中学校第1・2学年を対象に実施しています。

今年度の結果をみてみますと、小学校は、4年生、5年生の国語と4年生の算数において、目標値を超える結果となっており、これまで同様、基礎学力が一定定着してきていることがうかがわれます。しかし、5年生の算数と理科は、目標値を下回っています。5年生の算数においては、文章問題から式をつくったり、式の意味を理解したりすることに課題がみられています。また、理科においては昨年度課題であった顕微鏡の使い方を問うなどの知識・技能の定着に改善がみられているものの、実験結果から再度、新たな実験方法を考えるといった思考力を問う問題にはまだ十分対応ができていない状況があります。このような点については、年度内に復習をしっかりと行っていくことが必要です。

中学校では、国語は、1・2年生ともに目標値を上回っていますが、その他の教科は全て目標値を下回る結果となっています（-1.1ポイント~-4.8ポイント）。数学は、小学校と同様に式の意味を考えることに課題がみられ、単に問題を解くだけでなく、問題の解決の過程を振り返る活動を行っていく必要があります。今年度の全国学力・学習状況調査において大きな課題があった英語については、依然、文法や単語のスペルなど基礎基本が身につけていない状況があります。文脈に応じたやり取りを充実させる一方で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」それぞれについて、しっかりと基本的事項の定着を図る取組が必要です。

質問調査において、授業中におけるタブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日活用している」と回答した児童生徒の割合が、昨年度と比較し全ての学年において10ポイント以上増加しており（12.8ポイント~23.5ポイント）、各学校において日常的な活用が進んできていることがうかがえます。一方、「学校の授業以外に（平日）1日にどれくらいの時間、勉強をしますか。」の質問に対して、「全くしない」と回答した児童生徒の割合は増加傾向にあり、依然課題があります。

県教育委員会としましては、今後ICTを効果的に活用した、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図ってまいります。また、学習習慣を定着させるようデジタルドリルの効果的な活用を進めていきます。

さらに、中学校の学力対策として、学力調査からみられた課題の改善策を協議するブラッシュアップ研究協議会や授業づくり講座の充実を図ってまいります。こうしたことを通して各学校に組織的な学力向上検証サイクルを確立させ、子供達にしっかりと基礎学力の定着を図ってまいります。

市町村教育委員会や学校におかれましても、今回の調査結果から得られました市町村及び各学校の成果や課題を明らかにして、一人一人の児童生徒への学力補完を確実にを行い、今後の学習指導の改善に役立てていただきたいと思います。

高知県教育長 長岡 幹泰